令和６年度　　札幌市立宮の森中学校「学ぶ力」育成プログラム
～ 世界は自分たちの手で変えることができる ～

学校番号：31007

実態

「学ぶ力」

これまでの　成果	課　題
◇札幌市共通指標の『学ぶ力育成の５つのポイント』である「自ら学ぶ方法と人と学び合う方法」「意味理解を伴った知識の習得と知識を使いこなす力」「自分の伸びを実感して新たな目標をもつ」「生活を自らコントロールする力」「難しいことにも挑戦する力」に関連するほとんどの項目において、札幌市全体の集計よりも肯定的な回答が多い。特に「人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある」という項目は安定して高く、継続的なユニット学習や異学年交流の積み重ねと、道徳における対話型の学習や、総合的な学習の時間における協働学習の成果が見て取れる。	◇主体的な学習の機会として「自主学習の時間」を設定したが、自分の疑問や興味・関心を突き詰めていくような学習を進める生徒は少数で、大半がワークや塾の宿題などのドリル演習に終止している実態がある。 ◇自分の興味・関心、好奇心に素直に向き合ったり、自ら疑問をもち自分で課題を設定する力の育成が必要である。 ◇札幌市の共通指標から、「自分の意見を進んで発言しようとしている」生徒の割合が他項目と比較して低い。（一斉授業偏重） ◇各教科の学習と実生活や実社会とのつながりの薄さがある。（受験偏重）

「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く**相互承認の感度**〉　の現状と課題

◇札幌市共通指標の「相互承認」に関連する全ての項目において、札幌市全体の集計よりも肯定的な回答が高い。また、「自分が必要とされている」については年度当初より大幅に増加した。長年かけて実践してきたユニット学習や異学年交流に加え、教科実践発表の日など日常の学習の成果を表現し、学校全体で称え合う場や、コーチングセミナーによる認め合いのスキル向上、単元テストの再挑戦の機会を設定したことなどが自己肯定感の高まりに寄与していると考える。**引き続き、教職員や子どもたちが共にアイディアを練りながら、自己肯定感を高めるため「つながり」「有能感（できる感）」「自発性（自分から感）」を満たせるような場の創出に努めていく。**

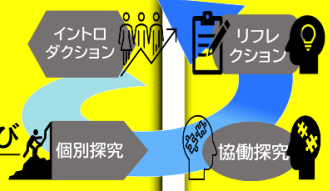
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

学校生活・地域社会・世界に目を向け、今を生きる当事者としてその課題に気づく力

取組

AAR サイクルの視点で捉え直した **課題探究的な学習**の推進

◇総合的な学習の時間のプログラムをアップデートし、最終探究課題においては**生徒自らが課題を設定する形式**とする。
◇各教科の学習では、**単元のテーマやねらいを実生活や実社会とのつながりが実感できるもの**として示していく。
◇評価の２期制への移行を通して、**生徒自らが単元ごとに個人の課題や目標を設定**し、**学習の過程を振り返りながら次の学びにつなげるサイクルの回数を増やす**ことで、生徒が学習を自己調整する力の育成をはかる。



さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく **自治的な活動**の充実

◇４月～５月を「人間尊重の教育」学校観の共有期間とし、６月の旅行的行事への準備活動を通した**人間関係づくりなどを「プラスのまほう」をキーワードに生徒主体で進めていく。**
◇生徒会による**学校改善プロジェクト（目安箱）の継続実施。**
◇文化祭における **PTA バザー昼食の収益の運用の仕方を、「社会貢献」をテーマに生徒会が PTA 役員と共同で考える。**
◇**学校関係者評価委員会における生徒会役員生徒の参加**と、**そこであがった声を学校運営へ反映**させていく。

〈本プログラムの実行に向けて〉

新年度
◇本プログラムの共有
・職員会議（４月１日）
・学年懇親会・学校評議委員会（５月）
・パートナー校間研修（６月 11 日）

〔一人一人の教職員〕
◇宮中生徒の学びの姿セルフチェック
◇日常の授業・教育活動
◇各自の研修：札教研・年次研修等
動画や書籍による情報収集

〔学校全体〕
◇教育課程委員会・校内研修会
・具現化に向けた対話・議論・実践交流
◇子どもの育ちの共有
・学運協（仮）・パートナー校

次年度へ
◇学校評価
◇成果と課題を共有
・学校関係者評価委員会
・新年度職員会議（３月）